

令和元年度 学力向上先進地域視察研修報告 (埼玉県・久喜市教育委員会、羽生市立羽生北小・羽生南中学校)

Bグループテーマ：「『書くこと』を重視した授業づくり及び授業評価」

※各グループのテーマは、学力向上プランの5つの視点に基づいています。

取組の実際

◇『書くこと』を重視した授業づくり

○ノート指導の充実

・全学年がマス目付きノートを使用し、課題(めあて)とまとめの振り返りを書くことを統一。マス目を使用することで作文指導を日常的に行える。

○マイマイ作文

・テーマや条件を付けた作文を毎週末に家庭学習として取り組ませる。
・発達段階に応じた無理のない分量やテーマ設定する。
・書いた作文は、教師が必ず添削し、児童の意欲を高める。

◇授業評価を生かした授業改善

○わかるステップ1・2・3・3+

・算数の学習における児童が考えをつくる場面で、児童に課題解決の状況を、1(わからない)、2(答えは出せる)、3(説明できる)、3+(分かりやすく説明したり、友達の考えを生かすことができる)で評価させ、評価の状況に応じて授業の展開を教師が工夫する。また、次時の授業の構想に役立てることができる。



ステップを「2」と表している



今後、各学校で実践していきたい取組

【学級担任として】

- 日々の授業でマス目を意識したノートづくりをする。板書をするときにも、ノートのマス目に合わせた文字数や位置などに配慮し、ノート指導の充実を図る。
- 書く活動を多く取り入れる。授業において「めあて」「自分の考え」「振り返り」の時間を位置づけ、書く力の積み上げをねらう。
- 授業において、自己評価をする場面を設定する。教師と児童生徒が理解度を共有することで個に応じた指導を充実する。

【教務担当主幹教諭として】

- 1時間の学習過程に「めあて」「自分の考えをつくる時間」「まとめ」「振り返り」を位置づけた、学習の流れを提案する。
- 「書くこと」の力をつけるための活動を、学校教育活動全体に位置付けていく。たとえば、小学校であれば、各学年の発達段階に応じた「書く活動」を位置付けたり、中学校であれば各教科等における書く力の向上に向けた取組などを明確にしたりするなどが考えられる。

【先進地域視察研修を通して実感したこと】

- 児童生徒が課題解決に向けて思考し、判断したことを表現させるためには、「書く力」の向上は不可欠である。「書く力」の向上のために、小学1年から中学3年まで、9年間を見通した「発達段階に応じた書く活動」を設定することが大切である。
- 児童生徒の「学習の評価」に基づいた授業改善を進めていくために、全教科で学習を振り返りの活動等の実施、改善が必要である。

共通テーマ「授業づくりについて」

取組の実際

◇振り返り活動の工夫

○ふりカエルカードの取組

・中学校全教科統一して「ふりカエルカード」をつくり、毎時間の振り返りを確実に実施できるようにしている。生徒の言葉で振り返らせることで学習内容の定着を図るとともに教師は評価、授業改善に生かしている。



◇対話的な学びの工夫

○南中シェアタイム

・1単位時間の考えを深める段階においてシェアタイムを位置付けている。その際に、ワークシート、ヒントカード、キーワード等の支援の工夫を行っている。また、学習形態(ペア、グループ、フリー等)を内容に応じて設定することで、生徒の教え合い、学び合いが効果的に実施されるようにしている。



○同じ考えのグループによる交流活動

・同じ考えをもつ児童をグループをつくり、ホワイトボードを活用した交流活動を設定することで、自分の考えを確かなものにし、変容をつかんだりすることができるようにしている。

今後、各学校で実践していきたい取組

【学級担任として】

- どの教科においても、1単位時間に、学習形態を工夫した交流活動を位置付ける。活動を行う際には、児童生徒が考えをつくる場面と考えを表現する場面を段階を踏んで設定する。
- 授業の終末段階での学習の振り返りの活動を充実する。この活動によって、次時の学習に児童生徒が課題をもって臨むことができる。また、振り返り活動を行う際には、児童生徒が主体的に学習を振り返ることができるようにするために、視点を明確にした記入するためのカードを用意する。

【教務担当主幹教諭として】

- 学力向上コーディネーターや研究主任と協働して、1単位時間の学習における導入・展開・終末の活動内容を再構築する。
- 学習形態を工夫した交流活動の在り方についても検討し、児童生徒が主体的に自分の考えをつくり、表現する場を設定する。
- 児童生徒の学習評価に基づいた授業づくりを行っていく。日々の学習評価と授業改善がリンクした取組を構築する。